

1 令和4年度事業検証結果等の係る答申について

【提 案】 企画経営部

【結 果】 承認

【質疑等】

- ・ 審議会に諮問をして、両論併記というものを初めて見るが、市として重要な方向性を決めるときに行政が独断専行しないよう、市の意見に対して専門家や市民の意見を聞き、合議で以って附属機関の意見をもらうことが、一般的となっている。それが難しい場合は、合議制でなく学識の先生等に様々な意見をもらう場として懇話会があり、審議会だけでなく意見をもらう手法は他にもある。今回の答申を受け、今後も両論併記となった場合、審議された事業が進めにくくなるのではないかと心配している。今後、どのように合意形成していくつもりなのか。
 - ⇒ 今回、6つの対象事業があったが、議論が難しいものもあり、議論し尽くすには時間が短かった。来年度は見直そうと思っている。この両論併記が良いとは思っておらず、両論併記のままでは次に進めることが難しい部分もあるため、今後、事業数や対象事業について検討していきたい。
- ・ 今後について検討するとのことだが、今回答申をもらった事業は、来年度も引き続き議論する対象にはならないのではないのか。現段階は両論併記だが、更に議論を行い、審議会としては結論を出すまで再度審議していくことは難しいと思うが、そのような対応が出来ないか。
 - ⇒ 来年度については、同様の状況が起きないように議論しやすい事業を選定したいと考えている。今年度、議論した事業について、来年度に結論を出す形で進める方法もあるが、今年度と同じスケジュールでは同じことになってしまうことが想定される。そのため、今回の答申については現時点における審議会の考えとして受け止め、最終的には市で判断していくということが現実的な方法と考えている。
- ・ 運営方針を決めていかないと同じような状況が起こることが想定される。また、審議の時間が足りないと言っているが、その場合、無理に答えを出す必要があるのか。両論併記のままだと、受け手側も積極的に実施していこうにも、反対意見も十分に踏まえないといけないため、そこを整理するためにより多くの時間をかける必要が出てくる。
- ・ どうしても審議会にかけないといけないのか。審議会として責任を負い兼ねるものについては、材料と方向性は出すが、最終的な判断は市に委ねると決めた事例もある。今回の対象事業は判断が難しい事業が多くあるため、審議会ですこまで責任が負えるのか考える必要があるのではないのか。
 - ⇒ 来年度に向けて、事業の選定方法等を含めて検討していきたいと考える。
- ・ 多くの資料を集め、内部で相当な議論をしたはずである。現状のままでは事業検証自体が何だったのかという議論になってしまう懸念がある。審議会の場合、市民の方の意見

を聞くかどうかに関わらず、両論は当然にあると思う。両論が出てきたときに、何を以って判断するのかというルールを決めておかないと同じようなことが続くことが想定される。

どちらかに偏るのでなく、進めようとする方向性の反対意見も取り入れながら、ただし進める方向性はこちらだと決めるようなルールを作っておかないと、全ての事業が止まってしまうことになる。ルールについては庁内で議論していけばいいのではないか。

⇒ 委員会全体としては、それぞれの事業の方向性に対して、反対の考えを持たれている方においても、利用者や市民とロードマップをしっかりと共有し、納得を得られるか得られないかは別として、手順をきちんと踏んでいった上で、最終的にお互いに合意点を見つけ出してしっかりやっ払いこうという意識は大きかったと思う。そのため、各々の事業を見直してはいけないという意見ではなかったと理解している。